

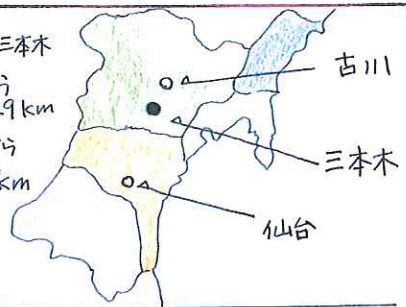
# ふくらく通信

2015年 第2号 4月15日発行  
 総号数 72 発行人 菅野香織

桑折城から鳴瀬川を望む

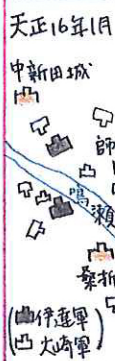
2011.4.27撮影  
 震災の傷心を和ませる

大崎市三本木  
 仙台から 29km  
 古川から 5.7km



## 兵の声も今は鳥の声 花に埋もれる古の城 桑折城 (大崎市三本木)

大崎市三本木の三本木橋の傍に、鳴瀬川を望む丘陵がある。「館山公園」だ。そこは、桜の如所である。卯月には、丘を覆うように咲き誇る桜が美しく、丘の上からの眺めも実に素晴らしい。



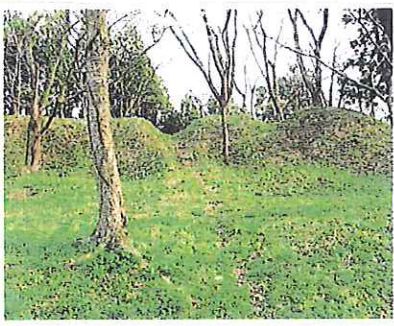
かつて、仙台から北の地域は、大崎氏や黒川氏、葛西氏といった勢力が領地を持って治めていたところ。時代が進むと、次第に伊達家の力が強まり、後に伊達家の領地となった。葛西氏は、鎌倉期に奥州を治める役職につき、そのままと領地に暮らしていたらしい。大崎氏は、その少し後の、権力抗争によって皇室が二分した南北朝の時に功をたて、奥州を管理するために派遣された斯波氏の一族という。大崎氏の他に、黒川氏や最上氏も、この斯波氏の一族とされている。

昔は、大崎氏が伊達氏の上役だったが、次第に力を増していった伊達氏が大崎氏と並びついに伊達氏が大崎氏を従属させたのであった。

しかし、そこに至るまでに、伊達氏は大崎氏との戦いに惨敗したことがあり、忘れえぬ苦さと悔しさを刻んでいる。

実は、三本木の館山公園も、かつて大崎一族の館であった。その名を、「桑折城」という。桑折城は、黒川月舟暗氏の叔父にあたる渋谷氏が城主になっていたとされている。伊達軍が大崎領に侵攻した時に、この桑折城に渋谷や黒川一族が籠城し、伊達軍を邀撃して退かせたという。

山城には空壕が多いが、これは敵が侵入した時の備えだ。この壕を通る時に、敵は一列になるので、そこをろなど組んで敵を倒す仕組みであるという。



伊達の軍勢を苦しめた、なかなかの人物である黒川氏は、大崎氏一門の上、伊達氏とも姻戚となっている。伊達とのつながりは、政宗公の叔父である政景の舅という立場だ。さすが政宗公に歯噛みさせた人物、時勢を読み、大崎と伊達との均衡を回って共存をほったのであるまいか。伊達氏に戦乱の世はむごい。伊達氏によって旧勢力は滅ぼされた。今は穏やかに、楽しげな鳥の声と、木々に囲まれた丘陵だ。だが、かつては勇猛で知力に優れた武士が、ここで伊達軍を迎え撃って退かせ、誇らしげに声をあげたであろう。



メジロの歌 足元のスマレ桜の底、今年も桑折城を飾っているだろうか。

二意見、感想は〒980-8529 仙台市青葉区一番町1-16-5 河北仙販内「ふくらく通信」まで。またはブログ「ふくらく通信」へ(ふくらく通信で検索すると出ます)